

25年8月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 7月20日～ 8月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight.D.I.

品目		25/8月	9月	10月
入荷動向	国産材製材品	20.0	30.0	40.0
	外材製材品	0.0	10.0	0.0
	その他	-	-	-
販売動向	国産材製材品	10.0	40.0	50.0
	外材製材品	10.0	30.0	40.0
	その他	-	-	-
在庫動向	国産材製材品	20.0	20.0	20.0
	外材製材品	10.0	10.0	0.0
	その他	-	-	-

入荷は国産材製材品はプラス基調で推移、外材製材品は8月の横ばいから9月のプラスを経て10月には横ばいに。
販売は国産材製材品はプラス基調で推移、外材製材品は8月のマイナスから9、10月にはプラスに。
在庫は国産材製材品はマイナス基調、外材製材品は8月のプラスが9月のマイナスを挟んで10月はゼロに。

(2) 価格動向 Weight.D.I.

品目		25/8月	9月	10月
スギ	柱角 KD10.5×3	10.0	40.0	40.0
	柱角 KD12×3	10.0	40.0	40.0
	通し柱 12×6	0.0	20.0	20.0
	桁角	0.0	10.0	10.0
	母屋角	12.5	12.5	12.5
	タルキ	25.0	25.0	37.5
	間柱	10.0	20.0	50.0
	加工板	0.0	10.0	20.0
	又キ	10.0	10.0	10.0
	平割	10.0	10.0	10.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	20.0	30.0	30.0
	柱角 KD12×3	10.0	30.0	30.0
	土台角 10.5×4	20.0	30.0	30.0
	土台角 12×4	12.5	37.5	37.5
	通し柱 12×6	16.7	16.7	16.7
カマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	0.0	0.0	10.0	
米マツ割物	10.0	0.0	10.0	
北洋エゾマツタルキ	16.7	16.7	16.7	
北洋アカマツタルキ	0.0	0.0	0.0	

スギの柱材、母屋角、タルキ、間柱はプラス基調で推移、通し柱、桁、加工板は8月のゼロから9、10月にはプラスに、又キは8、9月のマイナスから10月にはプラスへ、平割は、8月のマイナスから9、10月にはプラスへ。
ヒノキは柱角、土台、通し柱ともにプラス基調で推移。
カマツ、米マツ、北洋アカマツタルキはともに横ばい、北洋エゾマツタルキはマイナス基調。

モニターからのコメント

製材品荷動き

・6,7月活発な荷動き感じられず、8月も益で国産材入荷減、販売も8月低調、月を追って回復と見通す。在庫調整の時期で特にグリーン材は調整。スギ製材品は直近大きな変動なく秋以降原木市況によって大きな変動の可能性、ヒノキ製材品も大きな変動ないが10月以降不透明、米マツ製材品は為替、中国の動き等読みにくいが価格は天井感。・入荷はスギヌキ、胴縁、破風板入荷多い、北洋アカマツも増加、販売は羽柄材苦戦、アカマツ製品高値推移も一定量販売、在庫はスギ羽柄材元落ち増加、KD柱間柱好調、北洋アカマツ入荷多く増加傾向。スギ柱は上昇横ばい、秋に向け再度上昇と予想、スギ間柱とWVとの価格差なくなった、スギ構造材グリーン横ばい、KD強含み、スギ羽柄材は価格上昇までは至っていない。ヒノキ土台は米ツガ注入土台高騰により代替品になっている。米マツ割物入荷増で品不足感なく、価格上昇から横ばいに、アカマツタルキはロシア、中国製品増加、価格は横ばいに移行。・国産材は季節的要因のため入荷減少、特に素材が減少。販売は9月末までの消費税駆け込みらしき小動きあり、在庫は素材減による製品減から特に並材全般に品薄気味。入荷は木材利用ポイントのため国産材が不足気味、販売は8月に入り良く売れるようになったため入荷少なく在庫、元落ちが減少

製材品価格動向

スギ	・流通量減少。・円安のため国産柱に割安感ありよく売れる、価格も上昇。通し柱、桁角は年間通して価格一定のため変動ない。間柱は不足気味で上昇を懸念。
ヒノキ	・柱は量減少で単価UP、10.5角は品薄感あり。土台角、通し柱品薄感あり。・KD柱、土台製品は原木不足と製品不足のため今後高値傾向と思う。
カラマツ	
米マツ	
北洋エゾ	
北洋アカ	